



石川県 羽咋市

姉妹都市

ふじおかはくい

岸市長にまちづくりの提案を行う児童たち



市長に政策提案

未来をつくる、わたしたちのアイデア

2月27日、羽咋市粟ノ保小学校6年生が羽咋市役所を訪れ、岸市長にまちづくりの提案を行いました。

総合的な学習を利用し、市議会定例会の傍聴や市のまちづくりについて学び、羽咋の活性化のために何ができるかを考えました。

児童たちは、「観光」「子ども」「定住」の3つのチームに分かれて力強く、堂々と発表を行いました。また、子育て支援・農業・観光スポットなどを切り口にしたPRパンフレットの作成もしました。

子どもならではの視点や柔軟な考えは、未来を切り拓く大きな力です。まちづくりにつながる一歩になることを期待します。

ふじおか Culture

～藤岡の文化を探る～

【問い合わせ 文化財保護課 (☎235997)】

No.109

藤岡市は6世紀の安閑天皇の時代、屯倉と呼ばれる政権の直轄地が設置されるなど、畿内大和政権と密接な結び付きを持つとともに、埴輪の生産も盛んに行われていました。

国宝・国指定重要文化財に指定されている埴輪のうち約4割が群馬県から出土しています。その中でも、太田市や藤岡市は県内有数の埴輪の産地と言われており、埴輪を焼いた窯が多く存在していました。藤岡市の土師神社北方100m近辺では、窯址が明治39年に2基発見されました。続いて昭和18・19年の発掘調査で発見された2基のうち、状態の良かった1基を保存しました。それが現在の本郷埴輪窯址です。本郷埴輪窯址は昭和19年に国指定史跡となり、昭和21年に覆屋がかけられ現在に至っています。

本郷埴輪窯址は、5世紀後半～6世紀末にかけて操業されていたことが発掘調査によって確認されており、人物・馬・家・大刀・矛・盾な

どの埴輪類が出土しています。これらは、焼き損じを捨てていた物が出土したと考えられています。また、生産された埴輪は、藤岡地域をはじめ、前橋や高崎地域所在の古墳を含む広範囲にも供給されていたことが判明しています。

現存する本郷埴輪窯址以外にも3基の窯址が過去に発見されています。仮説ですが、これらの窯址に並んで、連続した同一地形面に4m間隔で、20数基の埴輪窯が存在していたのではないかと推察されています。

21世紀である現在、千数百年前にはこの場所でたくさんの人々が埴輪を作っていたことを想像すると壮大なロマンを感じませんか？



国指定史跡本郷埴輪窯址

ほんごうはにわかまあと 本郷埴輪窯址

～とても身近な国指定史跡～

教えて！消費生活

消費生活センターの紹介

Q 消費生活センターについて教えてください。消費生活センターではどのような相談ができ、相談するとどのようなことをしてくれるのでしょうか。

また、相談する前に準備しておく良い物がありますか。相談した場合、秘密が守られるか心配です。

A 契約や取引、製品トラブルに関する相談など、消費生活に関する消費者と事業者間のトラブルについて相談できます。また、個人の借金に関する相談も受け付けています。相談内容によって、自主交渉の方法や具体的な解決策などについて助言します。必要に応じて、事業者との交渉の手伝いをすることもあります。専門家の支援が必要な場合は、相談者に適した機関を紹介します。

相談の際には、問題点を理解しやすくするため、事前に契約書などの関係書類やトラブルに至った経緯についてのメモなどを準備してください。なお、相談方法は電話または来所です。

消費生活相談員には守秘義務がありますので安心して相談してください。

【消費生活の相談は市消費生活センター ☎fax 兼用 201133 (来庁相談要予約) 相談時間 平日午前9時～午後4時】

ふじおか



災害時に自分や大切な家族を守るのは知識と備えです。「ふじおか防災トピックス」では、知っておきたい災害の知識やもしもの時にやるべき事など、いざというときに役立つ防災情報をお知らせしていきます。

ローリングストックを始めよう！

【問い合わせ 地域安全課 (☎27444)】

大規模災害が発生すると、電気・ガス・水道などのライフラインが停止したり、道路ががれきで塞がれたりして、物流が機能しなくなる恐れがあります。そのような場合、災害支援物資が届かないことや、スーパーやコンビニエンスストアで食品などが手に入らないことが想定されます。

ローリングストックとは

食料品や日用品の備蓄を日常の中に取り込む考え方です。普段から食料品や日用品を少し多めに買い置きしておき、古い物から消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量が家庭で備蓄されている状態を保つことができます。

ローリングストックのポイント

◆古いものから消費していく

備蓄する食料品が古くなってしまわないように、1番古い物から消費しましょう。新しい物と古い物を分けて配置したり、それぞれの食料品に合った備蓄方法で上手に循環させることが大切です。

◆消費した分は必ず補充する

いざという時のために、常に一定量を保ち、消費した分は買い足すようにしましょう。

